

# 法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-27

## 民法修正案参考書

---

(発行年 / Year)

1910

民法修正案參考書

法典調查會

民法

第四編 親族

(理由) 本編ハ既成民法人事編中親族關係及  
ニ後見ニ関スル規定ニ該當ス既成法典ハ  
人事編ニ於テ民法全体ニ通スヘキ総則ト  
親族の諸關係ニノニ當ルヘキ特別トノ間

法典調査會

ニ區別ヲ設ケス且公法ニ屬スヘキ規定ヲ  
モ併セラシ之ヲ一編中ニ收メタルヲ以テ或  
ハ人事編中ノ規定ニシテ他ノ各編ノ通則  
タルヘキモノアリ或ハ民法中ノ規定ニシ  
テ私法ニ屬セサルモノアリ分類体裁共ニ  
其宜ニキヲ得タルモノニ非サルヲ以テ法

典調査會ニ於テ之ニ修正ヲ加フルニ當リ  
人事編ノ規定ヲ三分シ其一部ハ之ヲ民法  
中ヨリ削除シ他ノ一部ハ之ヲ民法第一編  
總則編中ニ掲ケ其他ノ部分ハ之ヲ本編中  
ニ收メタリ蓋シ人事編第二章及ヒ第十  
章ニ於テ國民方限及ヒ身分証書ニ関スル

法典調査會

規定ヲ掲ケイシモ是等ノ規定ハ公法ニ屬  
スヘキモノニシテ之ヲ私法タル民法中ニ  
掲クルハ其當ヲ得タルモノニ非ラハ故ニ  
之ヲ國籍法、戶籍法等ノ特別法ニ讓ルコト  
トセリ其他手續ニ関スル事項ノ如キモ之  
ヲ民事訴訟法、非訴訟事件手續法等ニ讓ル

ヲ至當ト認メ總テ之ヲ民法中ヨリ削除セ  
リ又人事編第一章第十二條第十四章及ヒ  
第十五章ニ掲ケタル私権ノ享有及ヒ行使、  
禁治産、準禁治産及ヒ失踪ノ規定ノ如キハ  
皆權利ノ主体タル人ニ関スル規定ニシテ  
各種ノ權利ニ共通ナルモノナルヲ以テ之  
ヲ民法第一編總則編中ニ掲ケタリ  
本案ニ於テハ人事編中前ニ學ケタル二部  
ヲ除キ家族及ヒ親族ニ関スル規定ヲ纏括  
シテ之ヲ民法中ノ一編ト爲シ古來ノ法令  
慣習裁判例及ヒ官廳ノ指令等ハ勉メテ  
廣ク之ヲ參酌シ以テ既成法典ノ條規ニ必

要ナル修正ヲ加ヘタリ

本筆ニ於テハ人事編中ノ法規排列ノ順序  
ニ著シキ変更ヲ加ヘタリ既成法典ニ於テ  
ハ戸主家族ニ関スル規程ヲ人事編第十三  
章ニ掲ケ之ヲ親族の諸關係及ヒ後見ニ関  
スル規定ノ後ニ置キタリト雖モ我邦現今

法典調査會

ノ狀態ハ家族制ヲ以テ社會ノ基礎ト爲ス  
ヲ以テ本編ニ於テハ既成法典ニ於ケル戸  
主家族ニ関スル規定ノ位置ヲ顛倒シテ之  
ヲ親族編ノ首部ニ置クコトトセリ

第一章 總則

(理四) 本章ニ於テハ親族ノ範圍又ハ親等ノ

算定法ニ関スル規定ヲ掲ク而シテ之ヲ親

族編ノ總則トシテ本編ノ冒頭ニ置キタル

ハ本章ノ規定ハ親族法ノ基礎ニシテ他ノ

各章ニ規ケイム規定ニ共通ナルモノナル

法典調査會

ヲ以テナシ)

本章ノ規定ハ人事編第三章ニ該當ス人事

編第十九條乃至第二十五條ノ規定ハ一部

之ヲ本章ニ採用セリト雖モ同章二十二條

乃至第二十九條ハ扶養ノ義務ニ関スル規

定ナルヲ以テ之ヲ分キテ本編第八章ニ掲

ケタリ

法興調査會



茅七百二十五條 左ニ掲ケイル者ハ之ヲ親族

トス

一 二親等内ノ血族

二 配偶者

三 三親等内ノ姻族

(参照) 人一九、二三乃至二五、一項、同草二一、二

五、二項、二六、一項、二項、新律綱領中五等親圖、

刑一一四、一一五、民訴施行條例九、十五年五

月十一日內務省伺定、二十七年十一月十六

日大審院判決、佛七五、澳四〇、葡三四五、一

項、三五〇、九〇八、露二〇九乃至二〇八、伊四

八五二、一項、七四二、ヴオ一五三九、五四〇、グ

ラウビユン、シニ一七、一九、西九五五、白草七

七五、独一草三〇、三二、同二草一六、一六、一項

法典調査會

(理由)

既成法典ニ於テハ親族及ヒ姻族ノ區

別ヲ設ケ血統ノ相連結スル者ノミヲ指シ

テ親族ト稱セリ今我邦ノ慣習ヲ見ルニ親

族ナル文字ハ必スシモ血族ノミヲ指スモ

ノニ限ラサルカ如シ加之ナラス一七親族

用井タリ

ト姻族トシ區別スルハ甚ク煩ハシキヨシ  
テ本案ニ於テハ親族ナル文字ヲ血族及ビ  
姻族ニ通シテ之ヲ用井タリ又既成法典ハ  
親族又ハ姻族ノ關係ヲ指ス場合ニ於テ親  
屬又ハ姻屬ナル文字ヲ用井タルモ本案ニ  
於テハ親族關係又ハ姻族關係ナル文字ヲ

法律上親族ト稱スル者ノ範圍ニ付テハ諸  
國ノ立法例區々ニシテ獨乙民法草案ノ如  
キハ親族關係ヲ無限ニ認メタリ此主義ハ實  
際ニ於テ甚ク不便ナルカ故ニ諸國ノ立法  
例ニ於テハ何レモ之ニ適當ノ制限ヲ設ケ

たり西班牙民法及と自耳義民法草案ニ於  
テハ六親等以上ノ有ノミヲ以テ親族ト爲  
シタリト雖モ佛蘭西民法ハ相續ニ関シテ  
ナニ親等ニテノ有フ親族トシ又伊太利氏  
法ハ十親等ニテノ有フ親族トスル主義シ  
採レリ而シテ明律ニ於テハ四代コテノ有  
フ親族ト爲セリ大凡六親等以內ノ有ニ當  
ルナラン我邦ニ於テモ古來親等ニ依リテ  
親族ト親族ニ分サル者トフ區別シタルコ  
ト更ニ疑ナクナリ新律綱領及と刑法ハ  
別舉法ヲ採リタルモ六親等以外ノ者ヲ以  
テ親族ト爲サズ而シテ民事訴訟法ハ刑法

ノ親屬例ニ依リテ親族ノ範圍ヲ定メタリ  
本條ニ於テハ從來ノ慣習ト實際ノ便利ト  
ニ適ハルモノト信シテ親族ハ六親等以内  
ノ者ニ限ルモノト定メタリ

人事編第二十五條第一項ニ依シハ既成法  
典ハ血族關係ト同一ノ程度ニ於テ姻族關

法典調査會

係ヲ認メタル力如シ是レ實ニ我邦ノ慣習  
ニ及スルモノトス現行民法ノ如キモ實際  
上三親等以下ノ姻族ヲ以テ親族ト認メス  
故ニ本條ニ於テハ人事編第二十五條第一  
項ヲ削除シ姻族ハ三親等以内ノ者ニ非サ  
レハ親族ト爲ラサルモノト定メタリ

人事編第二十四條第一項ハ特ニ之ヲ置ク  
 ノ必要ナシ又同第ニ項ニ掲ケタル者ノ関  
 係ハ姻族關係ニ外ナラス然ルニ既成法典  
 ハ之ヲ以テ血族關係ニ準スルモノト爲セ  
 リ今此ノ如ク既成法典ニ於テ人事編第ニ  
 十四條第ニ項ニ掲ケタル者ヲ血族ニ準テス  
 ルモノト爲シタル所以ハ畢竟婚姻又ハ扶  
 養義務ノ制限等ニ関スル規定之ニ適用  
 スルカ爲メナラン本條ニ於テハ婚姻ノ制  
 限ニ関スル特別ノ規定及ヒ扶養ノ義務ニ  
 関シテ此等ノ者ニ適用セラル可キ特別ノ  
 規定ヲ設ケタルカ故ニ人事編第二十四條

第二項ハ之ヲ置クノ必要ナシ加之ナラス  
同條第二項ニ掲ケタル者ヲ血族ニ準スル  
トキハ被相續人ニ對シ血族ノ關係ヲ有ス  
ル者ノ現ニ存スルニ拘ラズ之ト血族ノ關  
係ナキ者カ相續權ヲ取得スル結果ヲ生ス  
ルコトナキニ非ザルカ故ニ人事編第二十  
四條ハ全部之ヲ削除セリ

第七百二十六條 親族間ノ世數ヲ算シテ之ヲ定ム

傍系親等ヲ定ムルニハ其一人又ハ其配偶者ヨリ同始祖ニ溯リ其始祖ヨリ他ノ一人ニ下ルマテノ世數ニ依ル

(参照) 人二〇、二一、二五、一項、同草二二乃至二四、二六、二項、佛七、三五乃至七三八、澳四一、四二、七三一、蘭三四五、二項乃至三四九、三五一、露二〇五乃至二〇八、伊四九乃至五一、五二、二項、グオ一五二〇乃至五二三、グラウビエ、ンデシ一八、一五、西九一五乃至九一八、白草七七六乃至七七九、独一草三一、三二、二項、同二草一五、一項、一六、一項、

法典調査會

(理由) 本條ハ親等ノ算定法ヲ定メタルモノ

ニシテ人事編第二十條第一項及ヒ第二十條ト其主意ヲ同フス、抑親等ヲ定ムルニ二種ノ主義アリ其一ハ之ニ依リテ親族間ニ於ケル尊卑ノ階級ヲ定ムルモノニシテ他ノ一ハ之ニ依リテ血統ノ親疎ヲ示スモ

ノナリ本条ニ於テハ血統ノ親疎ヲ以テ親  
等計算法ノ基礎ト為スヲ以テ最モ自然ニ  
通スルモノトシテ第二ノ主義ヲ採用セリ  
人事編第二十條第二項ハ親等ニ直系ト傍  
系トノ二種アルコトヲ示シ同第三項ハ直  
系ノ親族ニ尊屬親ト卑屬親トアルコトヲ  
示シタルモノナリ然レトモ是等ノ諸關係  
ハ特ニ法文ヲ待テ後ニ之ヲ知ルモノニ非  
ザルヲ以テ之ヲ削除セリ



第七百二十七條

養子ト養親及ヒ其血族トノ  
間ニ於テハ養子縁組ノ日ヨリ血族間ニ於ケ  
ルト同一ノ親族關係ヲ生ス

(参照)

人二、二一三四、同、草二五、一項、刑一一五、  
二項、二十一年二月二十一日横濱始審裁判  
所判決、併三四七乃至三五〇、露一四九以下、  
伊二一〇乃至二一二、ウ、ユ、リ、七二五乃至  
七二七、西一七五乃至一七七、白草三五〇  
乃至三五五、独一草一六〇一、一項、同二草一  
六三九

法典調査會

(理由) 本條ノ規定ハ人事編第二十二條本文

ノ規定ヲ採用シタルモノニシテ從來ノ慣

習ト全ク符合スルモノトス今本條ノ規定

ヲ以テ養子縁組ノ效力ニ関スル規定ト為

ストキハ養子ト題スル第四章第ニ節中ニ

掲グルラ至當トスヘキモ本條ノ規定タル

ヤ素ト養子縁組ヨリ生スル親族關係ノ性

質ヲ定メタルモノナルヲ以テ之ヲ本章中  
ニ掲ケタリ

人事編第二十二條但書ニハ養子トハ男女  
ヲ總稱ストアルモ單ニ養子ト言ハハ男女  
ヲ含ムハ當然ナルヲ以テ特ニ之ヲ明言ス  
ルノ必要ヲ觀ス

16

第七百二十八條 継父母ト継子ト又嫡母ト庶  
子トノ間ニ於テハ親子間ニ於ケルト同一ノ  
親族關係ヲ生ス

(理由) 本條ノ規定ハ人事編第二十三條ノ規

定ヲ採用セルモノニシテ只其主意ヲ明ニ

シタルノミ本章ニ於テハ庶子ヲ認メタル

カ故ニ嫡母ト庶子トノ間係ヲ規定スルノ

法典調査會

必要アリ而シテ配偶者ノ一方ト其實子ト

ノ間ニハ親子ノ關係アルヲ以テ其子ト配

偶者ノ他ノ一方トノ間ニ於テモ亦親子ノ

間ニ於ケルト同一ノ親族關係ヲ生スルモ

ノト為スノ必要アリ

第七百二十九條 姻族關係及以前條ノ親族關係ハ離婚ニ因リテ止ム

夫婦ノ一方カ死亡シタル場合ニ於テ生存配偶者カ其家ヲ去リタルトキ亦同シ

參照 人二六、二項、三六、同草二六、三項、民訴三

一、二、三四、三〇三、二十七年一月二十二日大審院判決、蘭三五二、露バルキツク二六、四、伊五

二、三項、独一草三三、同二草一六、二項

(理由) 本條ノ規定ハ人事編第二十五條第ニ

項ト其主意ヲ同フス同條ニ於ケル婚姻無

法典調査會

效ノ判決ナル文字ヲ削除シタルハ婚姻ノ

無效ナルトキハ初ヨリ姻族關係ノ成立セ

サルヲ以テナリ外國ノ立法例ニ於テハ婚

姻ノ解消ハ姻族關係ノ消滅ヲ来ササルモ

ノト為スモノアリ独乙民法草案ノ如キハ

本則トシテ此主義ヲ採レリ又伊太利民法

ハ配偶者ノ一方ノ死亡シタルカ爲メ婚姻  
ノ解消ヲ来シタル場合ニ於テハ例外トシ  
テ姻族関係ノ消滅ヲ来ササルモノト爲セ  
リ我邦ノ慣習ニ依レハ姻族関係ハ婚姻ハ  
解消ニ依リテ止ムモノナリト雖モ夫婦ノ  
一方ノ死亡シタル場合ニ於テハ生存配偶

法典調査會

者カ其家ヲ去リタルトキニハ姻族関係  
ノ消滅ヲ来スモノトス本條ハ即チ此慣習  
ヲ採用シタルモノニ外ナラサルナリ而シ  
テ前條ノ親族関係ハ親ノ婚姻ニ依リテ生  
スルモノナルカ故ニ其離婚ニ依リテ消滅  
スルニ至ルモノトスルハ至當ナリト認フ

可之

法興調查會

19

第七百三十條

養子ト養親及ヒ其血族トノ親族關係ハ離縁ニ因リテ止ム

養親力養家ヲ去リタルトキハ其者及ヒ其實方ノ血族ト養子トノ親族關係ハ之ニ因リテ止ム

養子ノ配偶者、直系卑屬又ハ其配偶者力養子ノ離縁ニ因リテ之ト共ニ養家ヲ去リタルトキハ其者ト養親及ヒ其血族トノ親族關係ハ之ニ因リテ止ム

(理由) 本條第七百二十七條ニ於テハ養子縁

法典調査會

組ニ依リ養子ト養親及ヒ其血族トノ間ニ

親族關係ヲ生スル旨ヲ規定シ且ツ前條ニ

於テハ姻族關係ノ消滅スル場合ヲ規定セ

ルカ故ニ本條第一項ノ規定ヲ置キ養子縁

組ニ依リテ生シタル親族關係ハ離縁ニ依

リテ消滅スルコトヲ助ニスルヲ可トス而

法典調査會

之ヲ他家ヨリ入りタル養親カ離縁又ハ離  
 婚ニ依リテ養家ヲ去ル場合性々之アルカ  
 故ニ亦第一項ヲ置キ他家ヨリ入りタル養  
 親カ養家ヲ去リタルトヤハ其者及ヒ其家  
 族ノ血族ト養子トノ親族關係ハ之ニ依リ  
 テ止ムコトヲ規定スルノ必要アルヘシ之  
 ヲ要スルニ第一項ハ養子カ祖縁ニ依リテ  
 養家ヲ去リタル場合ヲ規定シ第二項ハ養  
 親カ養家ヲ去リタル場合ヲ規定セルモノ  
 ナリ而シテ第三項ノ規定ハ家ノ觀念ニ基  
 キタルモノニシテ前二項ノ規定ト同シク  
 之ヲ置クノ必要アルハ勿論ナラシ



第七百三十一條 第七百二十九條 第二項 及レ  
前條 第二項ノ規定ハ本家相續分家及ヒ廢絶  
家再興ノ場合ニハ之ヲ適用セス

(理由) 本條ノ規定ハ我邦ノ家族制度ニ照シ

テ之ヲ置クノ必要アルヲ知ル可シ凡ソ生  
存配偶者カ本家相續分家又ハ廢絶家再興  
ノ為メ其家ヲ去リタルトキハ其生存配偶

法典調査會

者ハ依然其家ニ在ルト之ヲ同一視セサル  
可カラス又他家ヨリ入りタル養親カ同一  
ノ原因ニ依リテ養家ヲ去リタルトキハ離  
縁又ハ離婚ニ依リテ養家ヲ去リタル場合  
ト異ナリ依然養家ニ在ルト殆ト同一ナル  
カ故ニ第七百二十九條 第二項 及ヒ前條 第

二項ノ規定ハ全ク此等ノ場合ニ通用スヘ  
カラスルナリ

4